



2026年9月7日
森下仁丹株式会社

森下仁丹、「ビタミン D 摂取による食物アレルギー予防」の 最新研究を支援

～小児医療の最前線と連携し、乳幼児の健やかな成長に向けた啓発活動を強化～

森下仁丹株式会社（本社：大阪市、代表取締役社長 森下雄司、以下「当社」）は 2026 年 8 月、第 35 回日本外来小児科学会年次集会にて「ビタミン D による食物アレルギー予防の可能性」をテーマとしたランチョンセミナーを共催いたしました。また、ビタミン D 摂取による食物アレルギー抑制の効果を検証する最新の臨床研究に対し、ビタミン D を含有する食品を提供する形で支援をいたしました。

当社は、現代の乳幼児に増加傾向にある「ビタミン D 不足」という社会課題の解決を目指し、小児医療の専門家と連携した啓発活動に尽力しております。

製品の開発・販売にとどまらず、医療機関や専門家との共同研究・啓発支援を通じて、子どもたちの健やかな成長に真摯に向き合っています。

■取り組みの背景：現代の日本の子どもたちを襲う「ビタミン D 不足」とアレルギー問題

ビタミン D は、骨の成長（カルシウム吸収促進）をはじめ、免疫系の調節など全身の健康維持に関わる重要な栄養素であり、日光を浴びることで体内でも合成されます。しかし近年、過度な紫外線対策や生活の屋内化により、母親世代および乳幼児のビタミン D 不足が深刻化しています。

母乳は人工乳に比べてビタミン D の含有量が少ないため、母親がビタミン D 不足だと、完全母乳で育つ赤ちゃんもビタミン D 欠乏症になる可能性が高まることが分かっています。日本小児科学会の調査等でも乳児の過半数がビタミン D 不足状態にあることが指摘されており、2025 年には学会から予防に関する提言が出されるなど、社会的関心が高まっています。

さらに近年の研究では、ビタミン D 不足が骨の発育（くる病等）だけでなく、「子どもの食物アレルギー発症」などの全身疾患に関与している可能性が明らかになってきました。こうした背景を受け、ご家庭や医療現場に向けた正しい知識の普及と、科学的エビデンスに基づく啓発の重要性が一層高まっています。

■学会での啓発活動と最新知見の発表支援

当社では、小児医療の最前線（医師・学会）と協力した啓発活動を継続的に展開しています。このたび、最新知見の社会への提示を目的として、以下の取り組みを実施・支援いたしました。

1.ランチョンセミナーの共催

「子どもの食物アレルギー」と「ビタミン D」の関連性について、小児医療の最前線からの知見を共有するセミナーを共催いたしました。

【概要】

テーマ : 「ビタミン D 摂取による食物アレルギー予防の可能性」

実施日 : 2026 年 8 月 22 日（土）

演者 : 中野 泰至 先生（千葉大学医学部附属病院小児科 大学院医学研究院小児病態学）

座長 : 時田 章史 先生（医療法人社団 Bambini 理事長、日本専門医機構認定小児科専門医）

2.臨床研究の支援

乳幼児期におけるビタミン D 補給が「食物アレルギー」を抑制・予防する可能性を検証する千葉大学での臨床研究において、ビタミン D を含有する食品を提供し、研究活動を支援しております。

■専門家および担当者のコメント

・千葉大学医学部附属病院小児科 中野 泰至 先生



千葉大学では、小児アレルギー等に関する出生コホート研究を実施し、生後 4 か月までの母乳栄養と 1 歳時点での卵白感作のリスク関係や、血中ビタミン D 濃度が小児のアレルギー発症に与える影響などを経時的に調査しました。更にこの研究を受けて、食物アレルギー予防を検証する研究や社会実装研究も進めており、これまでの知見から乳児期早期からのビタミン D 介入は食物アレルギー発症予防の効果が高いと考えています。今後も森下仁丹様の協力をいただきつつ、多くの方の健康に役立つ研究を推進していきます。

・森下仁丹株式会社 事業推進本部 戦略企画部 森本 朋子



ビタミン D 受容体は、骨や腸管だけでなく、免疫細胞、脳、血管内皮、筋肉など全身のほぼすべての組織・臓器に存在しています。これはビタミン D が体内で多様な働きをしているということになります。この度の日本外来小児科学会での乳幼児のアレルギー発症への可能性の発表など、小児科等の先生方より専門的な知見からビタミン D の普及とエビデンス構築を支えていただいております。担当の私自身、小さい子どもを持つ母親としても、子供たちの健やかな成長を応援するために、小児科や産科の先生方、医療機関との連携・共同研究を通じ、ビタミン D の重要性和正しい知識を社会的認知として定着させ、ご家族が安心して子育てできる環境づくりに貢献してまいります。